

## カントリーエレベーター今秋稼働 県南初



角田市は、県内有数の米どころで、土地基盤整備事業や全国に先駆け農薬・化学肥料を減らした特別栽培米に取り組んできた。

同市など県南部の2市7町を事業区域とする「みやぎ仙南農業協同組合」では、同市枝野地区にある乾燥調製施設が令和元年東日本台風により被災したことから穀類乾燥調製貯蔵

施設（カントリーエレベーター：CE）の建設を計画、9月5日に落成式が執り行われた。

鉄骨造2階建、延べ面積1224㎡、貯蔵能力は生粳換算で2106トン。粳の重量を車両ごと計測できるトラックスケール方式を採用。総事業費は約11億円で、国や県の補助事業を活用し整備した。

農業者個々の農業用設備への過剰投資の回避、作業の効率化を図り、担い手の負担の軽減、農地の集積・集約化を目指し、地域農業の維持発展を図ることを目的としている。

県南初のCEが今秋から稼働した。担い手の経営改善、規模拡大や粳のまま貯蔵し、出荷直前に粳摺りして新鮮な状態で届けられる「今摺米」の導入で今後の販路拡大が期待される。